

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	平成25年3月15日	評価結果市町村受理日	平成25年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&kijsyosyoCd=4490500198-00&PrefCd=44&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府荳番館 1F		
訪問調査日	平成25年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『風光明媚な本匠の地に、ようこそ！』とお迎えすることから私たちとご一緒に暮らしを始めています。ホーム周辺には桜の木を植樹しており、満開に時期には居室からも戸外に出ても入居者の目を楽しませてくれそうです。食事は市販調理品をほとんど使用しない手作りにこだわり、ホーム菜園に作付した四季折々の野菜類が食卓に上ります。ギターの得意なスタッフの演奏での合奏は入居者の皆さんが楽しみにしていて大いに盛り上がり、笑のある歌声が館内に響き渡っています。小中学校、幼稚園が隣接して所在し、子供たちとの交流も盛んで、ホーム内庭では小学生が自転車乗りの練習も時々しており、それを眺める入居者の姿がよくマッチしています。隣接『住み慣れた我が家で生き生きと、そしていつまでも！』を合言葉に、「地域にあるごく自然な佇まい」を目指したホームづくりを目指して二年目を歩んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の季節感を施設の中で体感でき、地域密着型サービス事業所としての理念に沿った、日常的な外出支援や団樂のひと時、談笑しながらの食事などを通して、「心から豊かに、その人らしく暮らすこと」を目指すサービス提供が行われています。
また、利用者が楽しく、安全に、安心して暮らすことが出来る環境づくりに取り組まれ、家族も信頼を寄せているホームです。開設後、1年余りと新しいため、課題はまだ多いが、地域に根ざした開かれた事業所として、良質なサービスが提供できるよう、管理者を中心として職員一同が真摯に取り組んでいます。職員の支援のもと、利用者は明るい表情で会話したり、穏かで、落ち着いた日々を過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は定めているが、職員間で共有する機会が少ない。	開設時に理念はあり、事務所に掲示されています。理念について職員間で共有する機会が、少ないように思えます。	理念は、誰にも見やすい場所に掲示すると共に、ミーティング等活用し、全職員で話し合い、理念に沿った支援・サービスの提供を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接地に小中学校・幼稚園・保育所があり、双方の行事やイベントに参加し交流を図っている。特に中学校では中学校行事の「卒業生を送る会」への参加、福祉体験学習の受け入れをするなどの相互交流を行っている。	地域の方々より、近くで取れた野菜の差し入れがあったり、施設として学校行事に参加し、また小・中・高校生ボランティアの受け入れなど、相互の交流がなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在の実践状況は十分とはいえない。もう少し地域の方々との交流を進めたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見を伺い、それをサービス向上に活かせるよう努めているが、まだ十分とは言えない。	推進会議は、7名のメンバーで年6回行い、利用者の状況、家族の意向、サービス等について話し合いが行われています。	自己評価、外部評価の結果を推進会議に報告すると共に、目標達成計画等を明示、意見・要望など双方向な情報交換の取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居相談を受けたり施設見学に来ていただき、常に情報交換を行っている。	施設への入居状況、利用者の暮らしぶりや、ニーズなど必要に応じて相談をしたり、情報交換が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵は極力使用しないように努めている。見守りを重視し玄関の施錠はしていない。	身体拘束に関する勉強会を必要に応じ、学習会の中で取り組まれ、また近所の人達から外出された方への情報を得るなど見守りや連携プレーがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスを通じてスタッフ間で意識の共有を図っている。入居者の平穏を心掛け支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで学習の機会がなかった。今後、行政機関主催研修会等に参加するなどしてスタッフのレベルアップを図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は入居契約の際には十分に説明を行い、承諾を得、その内容に対する理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で入居家族や運営推進委員の意見や要望などを伺っている。	利用者・家族の意向を家族会や誕生会などを活用し、その対応を実践されています。また意見・要望がある時は、職員を通じ気軽に言えるような環境作りに取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月に一度のカンファレンスの機会を設定し、その中で意見交換し、改善していく箇所を見直し実践に努めている。	ミーティング、カンファレンスを通じ職員の意見を反映したり、日常的な関わりの中での気づきやアイデアを運営の中に取り組みされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間終了時での固定給への変更や、資格取得による資格手当の付与、業績など総合的な評価に応じての昇給などを行い、意欲向上を図っている。今後はもう少し個別の面談を充実させ、それぞれの目標達成をサポートしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況は実際に現場を見るまたは、管理者より報告を受け把握に努めている。研修があった場合、朝礼や張り紙などを通じて告知を行い、参加を促している。また法人内での研修会(口腔ケア・オムツの当て方等)も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐伯市長寿支援ネットワークや各施設等の相談員が集まって行う事例検討会など、同業者との交流の場にも参加し、他の事業所との連携を図っている。またその場で知れた知識や研修会などは朝礼などを通じて職場への周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアプランや基本情報を確認し本人の要望や希望を伺うなどして、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネジャーを通じて情報を受け、内容や状況を把握し適切な支援ができるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内容を管理者やケアマネジャーを通じて受け送りを行うなどして、そのサービス内容からもう一つ上のサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に尊敬と感謝の念を持ち、人生の大先輩としての教えやアドバイスを受けるなど、相互的な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに入居者の日常の様子を伝えるなどして、家族の方との良好な関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	頻繁には実行できていないが、入居者の馴染みの場所等へのドライブに出かけるよう心掛けている。	本人を取り巻く人間環境を把握し、外出希望にそって、馴染みの知人・友人等に遊びに行くなど、本人の要望に応じて継続的な支援に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようにスタッフが声掛けし、レクリエーションを一緒にするなどコミュニケーションを図るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や表情の変化などにより状況を把握するようにしている。また読み取りが困難な場合は家族の意見を求めている。	生活状況・食事への要望等、利用者本人の意向に沿った個別的な支援や、本人が表現しにくい事を家族や日々の行動・表情から汲み取り支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や基本情報を確認し、より入居者に適した生活環境や支援サービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や支援記録、送り等で日々の状況を共有周知し、入居者の現状を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心となり、家族や職員と話し合い介護計画を作成している。カンファレンスにて問題の解決に取り組んでいる。	本人の要望や家族の意向など介護計画に反映するよう、また本人の状況の変化が生じたときは、職員の意見を反映し、モニタリングに基づいた見直しに取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録やカンファレンスなどで情報を共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設見学や体験入居などで対応している。入居者の要望には対応するように努力しているが、対応しきれない場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小中学校の児童生徒との交流ができ、職員及び入居者は楽しい時間を共有した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はしないようにしている。また協力医療機関とも密接に連携し、定期受診を行うなど日常の健康管理に努めている。	利用者・家族の希望を踏まえ協力医をかかりつけ医としており、定期受診を受けられ、また、利用者の日々の状態をしっかり把握し、必要に応じ定期受診の日以外の受診も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人所属の看護師を併任配置し、入居者の日常の健康状況等を把握するとともに、24時間連絡を取り合える体制を敷くことで急変時への対応に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力連携医療機関をはじめ市内医療機関と連絡を取り、現状の把握に努めている。また退院時は入院中の情報を聞き即応するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者或いは家族の希望に沿えるように、予め書面等を作成し説明している。	事業所利用開始時に利用者・家族の希望に沿えるよう、しっかり話し合いを行い書面作成により、同意・説明がなされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて救急救命士による救急救命や心肺蘇生方法を学び、定期的に訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施している。地域との合同訓練を行っている。	災害対策方法、避難経路及び協力医療機関との連携方法等もしっかり出来ており、年2回以上、避難・防災訓練が行われています。また、地域の方を含めた中での合同訓練に取り組まれています。	対策方法、避難経路及び協力医療機関との連携方法等もしっかり出来ており、年2回以上、避難・防災訓練が行われています。また、地域の方を含めた中での合同訓練も行われています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮して接しているつもりではあるが、職員同士の注意が不十分ね点もあり、自らの発言と入居者に及ぼす影響が見えていない部分がある。	誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応に努めており、また日々の生活の中で一人ひとりを尊重した対応が出来るよう努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をよく聞き、いま何をしてほしいのかを把握し、本人の希望がかなえられるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿った支援を行っているが、入居者の希望に沿えていない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や着衣については自己決定を促している。髪やひげそりは、自力でできない入居者に対しては職員が対応している。散髪や美容カットは希望に応じて訪問美容師に依頼し、ホームにおいて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見や希望、嗜好を聞いてメニューを決める時もある。食事の中の楽しい雰囲気づくりは必ずしも十分とは言えない。	2ユニットあり、食事メニューは全体で同じメニューの物を食べていますが、利用者と相談しながら好物をメニューに取り入れるよう努められています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や水分量をチェックしている。食べやすくカットしたり嫌いなものや禁忌食材がある場合は別のものに変更するなど、彩りに工夫しながら楽しく召し上がっていただけるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口腔スポンジを使用し、個々人にあつたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や排泄量をチェック表に記録し日々の特徴をつかむと同時に、トイレ誘導やその入居者にあった排泄方法、衛生材の種類の変更や改善を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックなどをし、水分量を増やしたり運動をしたり、また内服による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予め時間を設定して入浴を行っているが、本人の希望に柔軟に対応している。	基本的には入浴時間が決まっていますが、本人が希望する場合は、柔軟な対応がなされています。また、体調の変化や気分の変化を職員で共有し希望に応える支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の中には昼夜逆転状況にある方もいる。そのため、その方に合わせ徐々に生活習慣が戻るように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを作成し処方箋等を確認し理解に努めている。体調の変化が見られる時は即座に看護師に連絡・相談し、指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の希望に沿って散歩やレクリエーション、カラオケなどを行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望により散歩に出かけたり、時には家族に連絡を取り外出できるように支援を行っている。	家族との連携を活かした個別の外出支援を行っています。一人ひとり個人にあった外出のサポートがなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のレベルを把握したうえで金銭所持をしていただいている。買い物代行も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や要望を聞き、家族等に電話などができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを工夫し、湿度や室温を調整し入居者が過ごしやすい環境になるよう工夫している。	玄関、廊下、トイレ等の温度差が出すぎないように、温度や室温を調整し、利用者がより過ごしやすい環境になるような工夫がなされています。また季節感を感じられる飾り付けも施されており、落ち着いて過ごせる環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスなどで気の合った入居者同士が談笑できるよう、また一人一人に合わせた時間を過ごせるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり以前に使っていた使い慣れた生活用品を使用するなどして、本人が過ごしやすい部屋づくりを心掛けている。また慣れ親しんだ布団で安心して過ごされている。	心地よい居室づくりがなされており、利用者が使われていたもの、使い慣れた物を基準にその人らしい居室づくりがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を花の名前にしているが、名前の表記や分かりづらい部分は文字を大きくするなどの工夫をしている。		